

平成30年度 学校評価シート

学校名：和歌山工業高等学校(全日制) 学校長名：田村光穂 印

めざす学校像 育てたい生徒像	生徒が輝く学校、地域とともにある学校、教師が夢を語る学校の3つの基本姿勢のもと、生徒・保護者・地域・教職員にとって魅力ある工業高校を目指す。
本年度の重点目標	1 生徒同士が学び合う能動的な学びの場となる授業づくりに取り組む。
(学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	2 生徒との共感的理解を大切に、望ましい生活態度、規範意識の育成に努める。
	3 企業訪問やインターンシップを強化し、地域の企業や職業について理解を深める。
	4 工業の専門性を生かした資格取得や地域貢献活動を推進する。

中期的な目標	○規律の中から生まれる自立心を基盤として、確かな学力の定着を図るとともに、ものづくりに関する創造性を伸ばし、自ら学び続ける力を育成する。 ○キャリア教育の充実に取り組み、希望進路実現のため、生徒に主体的に進路選択できる能力を育てる。 ○コミュニティスクールとして、地域連携や地域貢献を軸に、地域とともにある学校づくりの具体化に取り組む。
学校評価の結果と改善の方策の公表の方法	自己評価及び学校関係者評価の結果を、ホームページに掲載することで、保護者をはじめ広く公表していく。

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価				
重点目標				年度評価 (3月31日現在)
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標
1	授業への参加や取り組み姿勢について消極的な生徒が多くなる見られる。また、授業内容や成果について表現する機会が少ない。	教員が授業研究等を積極的に行い、生徒が主体的に授業に取り組むことへの取り組みがされているか。	研究授業を積極的に実施する。 生徒が発表や議論を行う授業を実施する。 アクティブラーニングを取り入れた授業を展開する。	研究授業を年10回以上実施する(昨年度7回実施)。 課題研究の発表会を年10回以上実施する(昨年度9回実施)。 AL対応教室の稼働率を全授業の1/3以上とする。
2	問題行動の発生件数などは減少しているものの、服装の乱れや化粧などは依然として見られる。また、携帯電話の使用マナーについても引き続き周知させる必要がある。	全職員が共通理解をした上で、生徒の指導に取り組んでいるか。	通学時のマナー改善や遅刻防止・身だしなみ指導を徹底するために、街頭での指導を実施する。 適時、服装頭髪検査など身だしなみやマナーを改善させる取り組みを行う。 ネット利用マナーを改善させるとともに、SNSへの不適切な書き込みを防止させる。	街頭指導を月2回程度実施する。 服装頭髪検査を各学期1回以上行う。 マナー講演会を実施する。ネットパトロールでの指摘を年間50件以内とする。
3	インターンシップが就職先企業と一致していないため、進路選択をスムーズに行えない生徒がいる。また、進路意識が希薄な生徒もおり、就職に対する意識を早い段階で強くする必要がある。	生徒の勤労観を高め、就職率を向上させる。また、インターンシップなどの勤労観を高める。	工場見学や現場見学を通じ、勤労観を高める。 インターンシップが進路選択につながる取り組みとする。 就職一次試験合格者を向上させる。	見学会を各クラス1回以上行う。 インターンシップ時の産業系企業の選択割合を50%以上とする。 就職一次試験合格者を85%以上とする(昨年度85.7%)。
4	専門的技術の習得に効果のある資格取得や工業の専門性を生かした地域貢献活動に取り組む、工業高校としての強みを発信していく必要がある。	専門性の高い資格と二級以上の資格を同時に取得し、コミュニティスクールの機能を生かした地域貢献活動に積極的に取り組む。	資格取得試験の合格者を向上させる。 ジュニアマイスターの受賞人数を増加させる。 小学校等への出前授業を積極的に実施する。	資格試験の延べ合格者数を180名、合格率を40%とする(昨年度172名・36.4%)。 ジュニアマイスター受賞人数を増加させる(昨年度5名)。 出前授業を年間3回程度実施する。

学校関係者評価		
平成31年2月15日 実施		
学校関係者からの意見・要望・評価等		
<p><生徒評価> A・B評価の合計が昨年度の76.2%から68.4%へと減少している。昨年度と調査項目を変更している部分もあるため、直接比較することはできないが、特にICTを利用した授業を受ける機会と工場見学や現場見学に行く機会が少ないという調査結果となっている。このため、これらについて組織的に取り組み、そのような機会を多く与えるよう改善する必要がある。</p> <p><保護者の意見> ・資格を取得するのに、教員からの声かけを徹底してほしい。・専門分野の授業をわかりやすく教えていただいている。・資格試験などに力を入れている。・進学希望者の学習サポートをしてほしい。・保護者への大切なお知らせなどを、メールでお知らせをしてほしい。・学校での取り組みがわからない。</p> <p><学校運営協議会委員の意見> ・携帯電話を授業中に使い、ゲーム等をしている生徒がよく見かけられ、残念に思いました。見つけたら没収(その時間だけ)するとか、良い方法があれば。 ・①接遇教育の充実、②確かな学力・技能の向上、③地域連携・地域貢献の促進について3つの部会を設けてほしい。</p>		
評価	生徒(前年度)	保護者(前年度)
A	35.0% (44%)	26.4% (29%)
B	33.4% (32%)	43.0% (46%)
C	23.6% (17%)	27.9% (22%)
D	5.7% (4%)	2.1% (3%)
E	2.4% (2%)	0.6% (0%)